

第38回電気通信普及財団賞

テレコム人文学・社会科学部門 総評

第38回テレコム人文学・社会科学賞、テレコム人文学・社会科学学生賞に多数のご応募をいただき有難うございました。

今回はテレコム人文学・社会科学賞に28作品の応募をいただき、そのうち4作品が英文論文でした。28作品という応募数は昨年に比べてやや少ないものの、18作品は書籍であり、読み応えのある応募作品が多数ありました。また同学生賞への応募は9作品であり、そのうち1作品が英文論文でした。

今回の応募作品の内容をみると、研究分野は社会、経営、法律、政策など多岐にわたっています。また研究の対象を見ても、マスメディア、プラットフォーム、中国の電気通信事業者、ネット社会と民主主義など情報通信・電気通信にかかわるさまざまな問題が取り上げられています。応募作品のうち、学会誌に掲載された論文等の中には明確かつ鋭い分析を示す秀作もありましたが、質と量の両面の総合評価の結果として、それらの多くは最終選考の対象には至りませんでした。他方、著書としての形態ではあるものの、学術研究とはいえ専ら読み物として書かれた類のものは概ね最終選考対象外となりますが、今回はそのような応募作品は例年に比べて少なかったようです。

テレコム人文学・社会科学賞の選定にあたっては、予備審査を経た約4割弱の作品について厳正な最終選考を行いました。その結果、入賞2件、奨励賞3件を決定しました。入賞した2作品のうち、稲増一憲氏の『マスメディアとは何か』は、インターネットまで視野に入れてデジタル時代においてマスメディアがどのような役割を果たしうるのかを指し示そうとする意欲的な作品であり、多くの審査委員から高く評価されました。また、もうひとつの入賞作品である、善如悠介・角田侑史両氏の英文論文『Platform Information Transparency and Effects on Third-Party Suppliers and Offline Retailers』は、ゲーム理論に基づいてモデルを構築し複雑なサプライチェーン全体を解明しようとしており、モデル分析であるために実践的な示唆に関しては今後の課題であるものの、国際的に評価の高いジャーナルの査読論文であることも含めて評価されました。

奨励賞の3作品に関しては、内容的には一定の水準に達してはいるものの、今後のさらなる発展を目指して研究を続けていただけるようにとの期待を込めて、奨励賞としました。

テレコム人文学・社会科学学生賞は、予備審査を経た3分の2の作品について厳正な最終選考の結果、2作品を奨励賞としました。受賞された方々の一層の研鑽を期待します。また、

大学院生だけではなく、学部生による情報通信に関わるさまざまな分野についての新規性、論理性などの面で優れた作品の積極的な応募を期待します。

最後にひと言。今回は残念ながら、テレコム人文学・社会科学賞・同学生賞ともに経済分野の応募作品がありませんでした。情報通信に関する経済学の視点からの理論分析、実証分析の応募をお待ちしています。

■テレコム人文学・社会科学賞

◆発行種別

発行種別	応募数	本審査	授賞数
書籍	18	5	入賞 1 件 奨励賞 3 件
国内学会誌	5	2	
その他 学術雑誌等	4	3	入賞 1 件
海外学会誌	1		
合計	28	10	5

◆分野

分野	応募数	本審査	授賞数
社会	15	5	入賞 1 件 奨励賞 1 件
経営	6	2	入賞 1 件 奨励賞 1 件
法律	4	2	
政策	3	1	奨励賞 1 件
経済	0		
合計	13	5	5

■テレコム人文学・社会科学学生賞

◆発行種別

発行種別	応募数	本審査	授賞数
国内学会誌	4	1	奨励賞 2 件
学位論文	3	3	
学術雑誌等	2	2	
合計	9	6	2

◆分野

分野	応募数	本審査	授賞数
社会	5	4	奨励賞 2 件
経営	2	1	
政策	1		
法律	1	1	
経済	0		
合計	9	6	2

◆著者の所属

研究分野	応募数	本審査	授賞数
学部生	1	1	
大学院生修士課程	1	1	
大学院生博士課程	7	4	奨励賞 2 件
合計	9	6	2